報道関係者各位

2026 年 11 月 2 日

株式会社 JDSC

JDSC、農林水産省の
「AI×『農山漁村』インパクト創出ソリューション実装プログラム」に採択

～ドローン×AI で放牧の「見回り」を省力化　畜産現場の人的負荷を軽減し事業継続を支援～

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志/佐藤 飛鳥、以下 JDSC）は、農林水産省が実施する「AI×『農山漁村』インパクト創出ソリューション実装プログラム」において、当社が応募した「ドローン活用による鳥獣・疾病対策」が選定されたことをお知らせいたします。

本ソリューションは、放牧地に設置した充電基地からドローンが自動で巡回し、ウシの起立困難やシカ・クマの侵入などの異常を AI が検知して農家のスマートフォンに通知するというものです。広く急峻な放牧地での「見回り」を省力化し、放牧を続けられる・始められる地域づくりを目指します。JDSC は今後、本プログラムの支援を活用し、実証にご協力いただける自治体・JA・畜産団体・農家の皆様とともに現場実装を進めます。

■「AI×『農山漁村』インパクト創出ソリューション実装プログラム」について

農林水産省が、AI を活用して農山漁村の課題解決を図り、社会や環境に対するインパクトを創出し得る取組を全国から募集・選定し、現場への実装を促進するプログラムです。令和 8 年 7 月 27 日から 8 月 28 日まで募集が行われ、有識者から成る選定委員会の審査を経て、JDSC を含む 20 件の取組が選定されました。

選定された取組は、以下の支援を通じて農山漁村現場への実装が図られます。

- 農業関連企業、農山漁村の活性化に取り組む企業等の関係企業との連携支援
- 地域金融機関の伴走支援等を通じた農家・自治体等とのマッチング支援
- 現場実装に係る人件費等の支援

農林水産省のプログラムページはこちら：

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanmin_kyousou/matchmaking/ai_solution.html

【本ソリューションの詳細】

■発案の背景：「広く急な放牧地では、人の手で全頭・全域を見回り切れない」

放牧は、牛が草地で自ら草を食べて過ごす飼養形態です。購入飼料や日々の作業の負担を抑えられるほか、アニマルウェルフェアや草地の維持の面でも利点があり、これからの畜産にとって望ましい飼養形態の一つです。

一方で放牧を担う畜産現場では、高齢化・少人数化による人手不足が進んでいます。放牧地は斜面や小川を含む広い地形であるため、現場では「遠くから見守るのが精一杯で、牛の近くまで行くのは負担が大きい」という状況にあります。それにより、起き上がれない牛や病気の発見が遅れて死亡や治療費につながるほか、シカ・クマの侵入や有害植物によって餌場が悪化するといった損失が生じています。

■ソリューションの概要

本ソリューションを導入した場合、日々の操作は不要で、AI を搭載したドローンが毎日放牧場を見回り、異常があるときだけスマホに知らせてくれます。起立困難・具合の悪い牛／シカ・クマの侵入／有害植物の繁茂などを発見して通知するまでのステップイメージは以下のとおりです。

1. **自動で飛ぶ：**放牧地の充電基地から、決まったルートを 1 日 2 回以上自動巡回し、基地に戻って自動で充電
2. **AI が見つける：**起き上がれない・具合の悪い牛、シカ・クマの侵入、有害植物の繁茂をドローン本体の AI が判定。電波が弱い場所でも利用可能
3. **スマホに届く**：異常があるときだけ、「どの牛が・どこで・何が」を写真付きの 1 画面で通知（LINE 等でも受信可能）
4. **2 タップで答える**：「合っていた／違った」の回答で、AI が現場に合わせて賢くなる



図：AI を活用した放牧見回りソリューションの実装イメージ

放牧地に置くのは充電基地だけで、また通知は写真付きの 1 画面で分かるのが特長です。見回りの負担がなくなれば、放牧を続けられ、また始められる地域も広まることが期待されます。実証では見回り時間の 30〜50%削減を目標とします。

- 短期：見回り時間の削減、異常の早期発見
- 中期：牛の死亡・治療費の減少、獣害被害の減少
- 地域として：放牧経営の継続・拡大と新規就農の後押し、草地（景観・環境）と集落機能の維持

将来的には、他の畜種や里山の獣害見守りへの展開も見込んでいます。

■JDSC 執行役員 田口裕之のコメント

「JDSC では、一次産業が抱える人手不足や生産性向上といった課題に対し、AI や先端技術を活用した解決策の創出に取り組んでまいりました。広島大学との『ひろしま AI サンドボックス』におけるデジタルツインの共同実証などを進める中で、技術開発にとどまらず、実際の生産現場で活用され、持続的に価値を生み出す仕組みを構築することが重要だと考えています。今回の採択を契機に、自治体や JA、畜産団体、民間企業の皆様との連携を一層強化し、AI やドローンなどの先端技術の一次産業への社会実装を加速させてまいります。また、本ソリューションの実証・導入にご協力いただける自治体や農家の皆様を広く募集しております。現場の皆様とともに実証と改善を重ね、放牧をはじめとする畜産現場の負担軽減と持続可能な経営の実現を目指すとともに、こうした取り組みを一次産業全体へと広げ、日本の基幹産業のアップグレードに貢献してまいります。」

■関連 URL

- 2025 年 10 月 7 日：JDSC が「スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）」に参画〜持続可能で収益性の高い一次産業の支援を加速〜：https://jdsc.ai/news/news-20251006/
- 2026 年 7 月 6 日：JDSC、広島県「ひろしま AI サンドボックス」第 2 期の採択者に決定〜気候変動に挑む畜産産業初※1 のデジタルツイン、広島大学と共同実証へ〜：https://jdsc.ai/news/9013/

■株式会社 JDSC について　https://jdsc.ai/

JDSC は、AI エージェントとデータサイエンスを核に、日本の基幹産業の変革を進めるテクノロジーカンパニーです。製造・物流・インフラ・公共などの現場に深く入り込み、DX や AX による意思決定の高度化から、フィジカル AI による現実世界の最適化・自律化までを実現。社会課題を解決する新たな産業スタンダードを創り、日本のアップグレードに貢献します。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 JDSC 広報担当　海藤（カイトウ）　Email：info@jdsc.ai　電話：080-9087-0193